

平成 18 年 7 月 3 日

株式会社みずほコーポレート銀行

新仙台市天文台整備・運営事業 **P F I 事業への融資契約の締結について**

1. 株式会社みずほコーポレート銀行（頭取：齋藤 宏）は、みずほコーポレート銀行をリードアレンジャー、デプファ・バンク・ピーエルシー（銀行）東京支店（日本における代表者：ウルリヒ・フォルマー。本店：アイルランド共和国ダブリン市）及び株式会社七十七銀行（頭取：鎌田 宏）をコ・リードアレンジャーとして、伊藤忠商事株式会社（代表取締役：小林 栄三）が代表企業として実施する P F I 事業である「新仙台市天文台整備・運営事業」（以下「本事業」）向けプロジェクトファイナンス総額約 40 億円をアレンジし、このほど P F I 事業者である株式会社仙台天文サービス（代表取締役：松 典男、以下「事業者」）と融資契約を締結いたしました。融資シジケート団メンバーは上記 3 行であり、エージェントには、みずほコーポレート銀行が就任しております。
2. 事業者は、伊藤忠商事、株式会社エヌ・ティ・ティ ファシリティーズ（代表取締役社長：森 勇）、株式会社五藤光学研究所（取締役社長：五藤 信隆）、戸田建設株式会社（代表取締役社長：加藤 久郎）、株式会社トータルメディア開発研究所（代表取締役：澤田 敏企）、株式会社橋本（代表取締役：佐藤 博俊）がそれぞれ出資した特別目的会社です。事業ストラクチャーは、別紙記載のとおりです。
3. 本事業は、仙台市天文台（所在地：青葉区桜ヶ岡公園 1 - 1）が施設周辺の都市化による観測環境の悪化や施設の老朽化により、移転新築する事業を、仙台市が「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」に基づく P F I 事業として実施するもので、約 33 年間のサービス購入型の BOT 方式¹にて行われます。施設の完成予定日は平成 19 年 12 月末、新天文台の開館は平成 20 年 7 月の予定です。事業者は、その後、平成 50 年 3 月末迄の約 30 年の維持管理・運營業務を行い、事業期間終了時に天文台施設を仙台市に引渡します。本事業は、天文台を対象とした P F I 事業としては全国初の案件であり、かつ、天文台としての事業運営に重きを置いた本格的 BOT 案件となります。
4. 新天文台は、青葉区錦ヶ丘 9 丁目の約 25 千 m²の敷地に延床面積約 6,061 m²の天文台施設を建設します。口径 1.3m の主力望遠鏡の他、太陽望遠鏡、市民観察用望遠鏡（6 台）を備え、ドーム径 25m、座席数 280 のプラネタリウム及び延床面積約 1,200 m²の展示室などの主要設備が整備されるほか、太陽系の惑星軌道をデザインした屋外展示等も設けられます。なお、口径 1.3m の大型望遠鏡は、一般の方が利用することができる天文台としては、国内で 3 番目の大きさとなります。

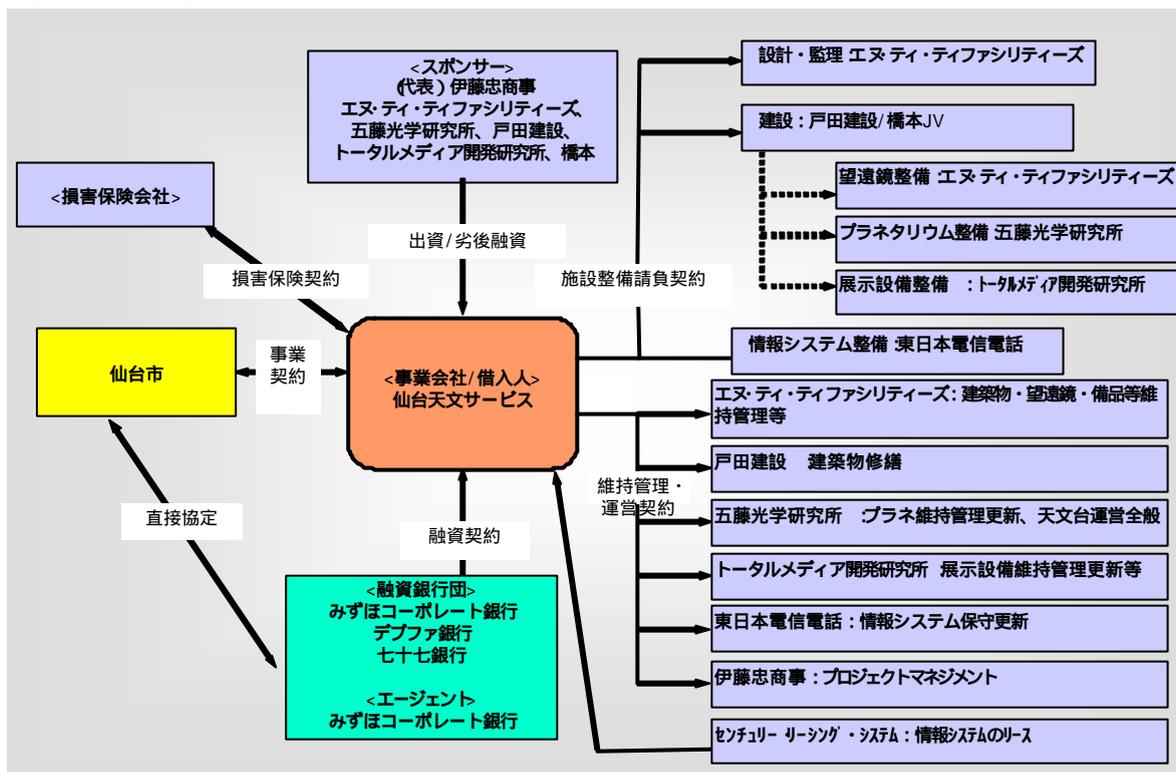
1：BOT方式・・・Build Operate Transferの略。民間事業者が施設等の建設、維持・管理及び運営を行い、事業終了後に公共施設等の管理者等に施設所有権を移転する事業方式。

以 上

【ご参考】

- ◆ 本事業 : 新仙台市天文台整備・運営事業
- ◆ 事業主体 : 株式会社仙台天文サービス
- ◆ 事業期間 : 2005年6月24日～2038年3月末日
- ◆ 融資総額 : 3,985百万円
 - 内訳 : みずほコーポレート銀行 1,645百万円
 - デプファ銀行 1,240百万円
 - 七十七銀行 1,100百万円

【スキーム図】



【鳥瞰図】

